

7. 環境修学旅行の取組

(1) 概要

本市では、本市の観光振興を一層推進していくため、国内外から高い評価を得ている本市の「環境」を、新たな観光素材とし、本市に集積している環境の施設や技術などと、観光の観点を、有効に組み合わせ「環境修学旅行」という本市ならではの修学旅行を平成 22 年度より開始しました。

平成 26 年度は、九州・関西エリアから小学校・中学校・高等学校の、合計 36 校 2,142 人が同修学旅行で本市を訪れました。

(2) 環境修学旅行の特徴

環境修学旅行の特徴は、現在の環境問題解決の主要 3 テーマである「地球温暖化防止」「資源循環」「自然共生」を切り口に、環境関連施設や企業の見学に加え、ユニークな体験学習やエコ弁当、エコ土産などを盛り込み、楽しみながら環境を学べる修学旅行です。



(3) 環境に配慮した企業の見学

本市には環境に配慮した製品づくりを行う様々な企業があります。工場見学などを通して企業の環境への取組を学ぶことができます。



TOTO



九州製紙



シャボン玉石けん

(4) 環境修学旅行のユニークな体験学習

環境修学旅行の特徴のひとつである体験学習は、本市でユニークな環境への取組を行っている企業や大学、研究者の方々の協力を得ながら行っています。

■産業廃棄物処分場跡地での植樹

本市では、平成 20 年から 34 年までの 15 年間で市内に新たに 100 万本の緑を増やそうとする「環境首都 100 万本植樹プロジェクト」を行っています。

同プロジェクトの一環として、若松区の響灘海岸の産業廃棄物処分場跡地において、市内企業によりどんぐりなどを植樹する緑化活動が行われています。

この植樹には、カンガルーの糞と、トマトの茎や葉を混ぜ合わせて作られた肥料が使われるという全国的にも大変ユニークな取組が行われています。

修学旅行生は、植樹をすることにより、市のプロジェクトに参画ができるとともに地球温暖化防止や資源循環の大切さを学ぶことができます。



■生ごみコンポストづくり

本市は、環境国際協力にも力を入れています。

その中のひとつで、ごみ問題に悩まされている東南アジア諸国において、生ごみを堆肥に生まれ変わらせるコンポストづくりを伝授している研究者がいます。

この研究者の方が直接、生ごみコンポストづくりをレクチャーし、ごみの減量化や資源化について学びます。



(5) 今後の取組

ひとりでも多くの方に環境修学旅行を経験してもらうことで、本市の環境への取組が広く情報発信され、次世代を担う子どもたちの環境意識の醸成が図られることが期待できます。

本市に環境修学旅行で訪れた方々が、楽しみながら環境を学んでいただけるよう、今後一層の内容の充実や受入体制の強化を行っていきたくと考えています。

第3節 環境情報の共有と発信

本市には、地域コミュニティ活動や自然環境保全活動などを通じ、様々な環境情報が蓄積され、ネットワークづくりも進められています。環境への取組を更に進めていくためには、あらゆる主体が環境に関する多様な情報を共有し、そこから新たな情報や行動を生み出し、発信していくための基盤づくりを進めていく必要があります。

今後、周知方法の更なる工夫を図りながら、様々な媒体・機会を活用した情報発信に取り組むとともに、シンポジウムやイベントで対話するなど、双方向でのコミュニケーションの促進を進めていきます。

1. 北九州エコライフステージ

(1) 目的

北九州エコライフステージは、「世界の環境首都」を目指し、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心に、エコライフの浸透を目指し様々な環境活動に取り組むものです。

(2) 事業内容

平成 14 年度に開始してから、開催 13 年目を迎えた平成 26 年度は、延べ約 260 万 9 千人の市民が参画し、193 行事を実施しました。その主な事業は以下のとおりです。

ア. シンボル事業「エコライフステージ 2014」

開催日：平成 26 年 10 月 11 日（土）・12 日（日）

会場：北九州市役所周辺広場

テーマ：あなたはいたん？ブラックていたん？

～見直そうわたしたちのエコアクション～

内容

- それぞれの出展のテーマに合わせて、9 のテーマゾーンを設置
- 環境活動に取り組む団体による有機野菜等を使った食のコーナー、環境商品の展示・販売、リサイクル工作教室など、日常生活に密着し、環境に配慮したライフスタイルを提案する出展
- マスメディアの参画によるステージイベント、番組の制作・放映



シンボル事業「エコライフステージ 2014」

- CO<sub>2</sub> の削減が実感できる、環境に配慮した会場運営の実施（デポジット制によるリターナブル食器の利用、次世代クリーンエネルギー（水素エネルギー）による発電、バイオディーゼル燃料による発電等）
- 小型電子機器等のリサイクル資源の回収
- 北九州市立大学の学生の企画・運営による「エコスタイル café」の実施

イ. 地域・テーマ別事業（通年事業）

会場：市内一円  
内容

市民団体、企業、学校等の様々な環境活動を行っている団体を紹介することで、市民団体・企業間の相互交流による環境活動の拡大、ネットワークの広がりが生まれました。（192 事業）

(3) 成果

北九州エコライフステージは、参加者が年々増加しており、市民に環境の環（わ）が広がっています。

シンボル事業「エコライフステージ 2014」では、71 団体、12 万 4 千人の市民が参加し、市民団体・企業・学校等との様々な交流が行われました。

また、平成 21 年度から実施している「3つの約束」では、ごみを出さない工夫、電気の使用を最大限に抑えたイベント運営、フードロスゼロの推進を行うことで、主催者・出展者・来場者が一丸となって環境に配慮した会場づくりに取り組みました。

(4) 今後の取組

市政 50 周年の翌年にあたる平成 26 年度は、次の 50 年へ向けた新たな一歩と位置づけ、エコライフの見直しをテーマに取り組みました。また、環境マスコット「ていたん & ブラックていたん」に関係したテーマにすることで、エコライフ推進に親しみをもたせることができました。今後もこの取組を継続し、さらなる環境活動の広がりを目指します。

2. 世界の環境首都創造に向けた情報発信

環境首都づくりに係る取組や成果を、インターネットによる環境情報ポータルサイトにより効率的に集約し、環境情報を積極的に受発信できる交流の場を構築しています。

■「北九州エコライフステージ」ホームページについて

本市の環境情報を集結したポータルサイトのことで、市民、NPO、企業、大学、行政まで幅広い情報提供者により、環境に関する情報をわかりやすく発信しています。

平成 26 年度は、これまでの 13 年間のエコライフステージの活動内容を横断的に検索できる「アーカイブシステム」を導入し、より分かりやすく使いやすいホームページにしました。

- 北九州エコライフステージの管理・運営  
北九州エコライフステージ実行委員会事務局
- 外部リンク  
北九州環境みらい学習システム、北九州エコタウン、環境ミュージアム等の各 HP



北九州エコライフステージのトップページ  
<http://www.ecolife-stage.org/>

■北九州エコマンス

本市では、市制 50 周年を迎えた平成 25 年 10 月に、「北九州エコマンス」を実施しました。行政や企業、大学、地域団体などが一体となって、合計で 34 もの環境イベントや国際会議が市内各地で開催され、市内外に北九州市民の環境の力を発信することができました。

平成 26 年度も引き続き 10 月を環境活動推進月間「北九州エコマンス」とし、さまざまな環境イベント等が開催されました。

3. 低炭素社会の実現に向けた広報戦略

「低炭素社会」の実現に向けては、産・学・官・民が一体となって取り組むことが重要です。そのためにはまず、低炭素社会の実現に向けた意識の醸成を図るための戦略的な広報活動が不可欠です。

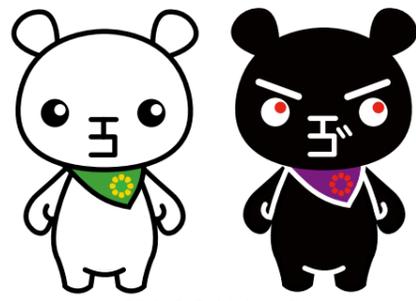
本市はこれまで、マスメディアを活用した広報や、環境情報誌による情報発信、環境関連イベントによる PR 活動、PR 看板設置など、様々な媒体・機会を活用して情報発信を行ってきました。

■環境マスコットキャラクターの活用について

本市の環境に関する取組や低炭素社会づくりについて、市民に興味を持っていただき理解の促進を図っていくため、平成 23 年度に環境マスコットキャラクター「ていたん」を発表しました。

子どもたちと触れ合うイベントに着ぐるみを登場させたり、イラストを市が作成する冊子・パンフレットやチラシ等に掲載して、目に触れる機会を増やしていきます。

また、平成 25 年度には、「ていたん」のお友達として「ブラックていたん」を発表しました。「ていたん」が鼻と口で「エコ」を表していることに対して、「ブラックていたん」は鼻と口が「エゴ」になった、エコが少し苦手な設定です。「ていたん」と「ブラックていたん」を通じて、エコに関するいいこと、悪いこと等を市民に分かりやすく伝えています。



「ていたん」と「ブラックていたん」



4. あらゆる主体による環境政策への参加の推進

環境問題の現状、課題、取組等に係る環境情報を誰でも容易に入手できる体制を整備し、環境行政のあらゆる過程において、市民・NPO、事業者、行政が連携・協働し、知恵を持ち寄り、共に考え、行動し、成果を検証するなど環境政策への参加を一層進めます。

(1) 北九州市環境モデル都市地域推進会議

本会議は、本市の環境モデル都市に関する取組を、市民・NPO・産業界・学術機関が一体となり、総合的かつ効果的に進めていくことを目的としています。

また、環境モデル都市に関わる情報の発信や、事業の推進、進捗状況の検証などを主な活動とし、約380の団体・事業所・個人等が登録しています。

■北九州市環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業（グリーンフロンティア助成）について

「北九州市環境モデル都市地域推進会議」に登録している市民団体、NPO、産業界、学術機関等の団体が実施する環境モデル都市を推進する活動を支援するため、平成 21 年度から「北九州市環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業（略称：グリーンフロンティア助成）」を実施しています。

活動団体への支援事業により、本市の地域における環境活動のレベルアップ及び地域全体の意識向上を図り、低炭素社会の実現を進めることを目的としています。

平成26年度は、7団体の活動が支援の対象となりました。

(2) 北九州エコライフステージ実行委員会

本会は市民・NPO・事業者・行政等で組織され、環境首都づくりを進めるための情報交流・情報発信及びエコライフの浸透を目的としています。

平成26年度シンボル事業では、「あなたはていたん？ブラックていたん？～見直そう、わたしたちのエコアクション～」をテーマに、持続可能な消費行動について来場者、出展者がともに考え、取り組みました。

(3) 北九州市自然環境保全ネットワークの会（自然ネット）

自然ネットは本市の自然環境分野の保全・育成・創成・利用・整備に貢献することを目的として、あらゆる主体が集まった組織です。会員同士の情報交換や研修を通じて、連携の強化と裾野の拡大を図っています。

平成 26 年度は、講演会や緑化運動、絶滅危惧種保全活動など、様々な活動の開催や支援を行い、約 2,000 人の方々が参加しました。

5. 環境情報の収集・整備・提供

地域の環境特性や環境変化の把握などを行うため、生活環境、自然環境、快適環境などの環境情報の体系的な整備とネットワーク化を進め、信頼性のある環境情報が提供できるよう収集・整備を進めています。また、環境情報の提供にあたっては、専門的な環境情報をわかりやすく説明するとともに、インターネット等を活用したタイムリーな提供に努めています。

(1) 環境に関する年次報告書の作成と公表

毎年、本市の環境の状況、環境の保全に関する施策等をまとめた報告書「北九州市の環境」（本編・概要版）を作成しています。本編は、巻末にデータ集として資料編（CD-R）を添付のうえ、有料（1冊：953円＋税）で販売しており、概要版は無料で配布しています。また、本編、資料編、概要版の全文をホームページで公表しているほか、市立図書館や各区生涯学習センター等でも閲覧できます。



平成 25 年度版

平成 26 年度版

【販売店】

- 井筒屋（北九州市庁舎内）
- 環境ミュージアム
- エコタウンセンター
- ブックセンタークエスト（小倉本店）

(2) ホームページによる情報提供

環境に関する取組については、市ホームページに掲載しています。地球温暖化対策、ごみ・リサイクル、自然環境、環境保全、環境国際協力などの主要な取組をはじめ、本市の環境施策をわかりやすく説明しています。

※北九州市のホームページ

(<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/>) で「環境局」を検索し、各課の取組をご覧ください。



**(3) 環境測定データの速やかな情報発信**

市内で実施している大気、水質などの環境測定データについては、平成 18 年度から、インターネットを活用して速報値をお知らせしています。

**(4) 自然・生き物に関する情報の整備**

本市の自然や生物に関する情報を把握するため、自然環境調査の実施と、調査データの集約化を図っています。

**(5) エネルギー情報デスク**

省エネルギーや再生可能エネルギーに関する、補助金制度・融資制度等の情報を集約し、市ホームページに掲載するとともに、制度の利用方法などに関する一元的な窓口として、情報提供や相談への対応を行っています。

**(6) 「分別大事典」の配布**

「資源」と「ごみ」の分け方・出し方を知ってもらうため、一目でごみの分類や出し方が分かる目次兼分別一覧表や、出し方に迷うものが簡単に調べられる 50 音順の分別早見表等を掲載した冊子を、区役所等で配布しています。  
(英語・中国語・韓国語・ベトナム語表記のものも作成しています。)



**(7) 「分別大事典アプリ」の配信**

手軽にごみの分別・排出ルールを調べられる環境を整えるため、スマートフォン・タブレット型端末向けの無料アプリを作成し、平成 27 年 3 月 31 日から配信しています。アプリは App Store または Play ストアでダウンロードできます。



**(8) 環境情報誌「ていたんプレス」(旧かえるプレス)の作成・配布**

環境に関する情報の提供、環境局の取組、廃棄物行政の報告(ごみレポート)、地球温暖化防止対策など、本市の環境行政全般について分かりやすく紹介し、市民の環境

意識の啓発を図る環境情報誌を平成 6 年から発行しています。

平成 26 年 7 月からは、名称を「かえるプレス」から「ていたんプレス」に変更し、環境マスコットキャラクター「ていたん」がナビゲーターとして、環境情報を紹介しています。また、『「ていたん」のごみ出しワンポイント」コーナーや、「ていたんのエコクイズ」コーナー、「ていたん」と「ブラックていたん」による 4 コマ漫画などを取り入れ、市民に分かりやすくエコを伝えています。

- ・発行回数/年 3 回
- ・配布先/市内全世帯
- ・サイズ/タブロイド版 4 頁カラー

平成 26 年度発行の「ていたんプレス」(No.46 ~ No.48)



**6 .OECD 北九州レポートの発表**

**(1) OECD グリーンシティ・プログラム**

経済協力開発機構(OECD)が取り組む「グリーンシティ・プログラム」は、モデルとなる都市のグリーン成長について、分析・評価を実施し、その成果を都市ごとに公表するほか、全体報告書を発表し、世界に情報発信するものです。

平成 23 年 6 月、本市はこのプログラムにおいて、環境と経済を両立させながら成長をしているグリーン成長都市のひとつとして、パリ、シカゴ、ストックホルムとともに、アジア地域で初めて選定されました。

**(2) OECD 北九州レポートの発表**

約 2 年にわたる OECD による調査を経て、平成 25 年 5 月と 10 月に、OECD より、本市の環境に関する取組などについてまとめたレポート「北九州のグリーン成長」の英語版と日本語版がそれぞれ発表されました。

本市ではレポートの発表を記念して、日本語版レポートの発表日である平成 25 年 10 月 18 日に、国際会議「OECD グリーンシティ・プログラム北九州レポート発表記念会議」を本市で開催しました。

レポートでは、本市が経済成長を遂げつつ環境改善を成し遂げたことや、都市間環境国際協力によりアジア地域

の環境改善に貢献してきたことなどが評価されており、また、今後のさらなるグリーン成長のために、市民の関与や積極的対話など、さまざまな事項が提言されています。

本市は、この提言内容を踏まえて環境への取組を一層推進するとともに、国内外にも広く情報発信を行い、世界のグリーン成長にも貢献をしていきます。



日本語版レポートを受け取る北橋市長(H25.10.18)

**第 4 節 国際的な協働・ビジネスの推進**

本市は、公害克服の経験やノウハウ、アジア諸都市とネットワークなどを活かして、環境分野の国際協力を推進し、国内外から高い評価を得ています。一方で、人口増加や経済発展が著しいアジア諸国を中心に、環境問題や水ビジネスに関する環境ビジネスの市場が拡大しています。今後は、環境国際協力の視点だけではなく、アジア低炭素化センターを中心に環境技術の輸出を積極的に進め、市内事業者等による環境ビジネスの機会創出に取り組んでいきます。

**1 . 諸外国との環境協力実績**

**(1) 都市別実績**

**ア . 大連市 (中国)**

友好都市である大連市とは、昭和 56 年に大連市で「公害管理講座」を開催して以降、人材技術交流を長年に渡って行っています。このような地域レベルの環境協力を経て、本市は ODA (政府開発援助) を活用した大連市の環境国際協力保全計画(マスタープラン)の策定を提案し、平成 8 年に「大連市環境モデル地区整備計画」の開発調査が採択されました。この開発調査は、自治体レベルの環境協力が ODA 案件に発展した初めてのケースとして注目されました。本市からも行政・企業の専門家をのべ 67 人派遣し、調査終了後には 5 件の円借款供与が決定しました。本市が平成 2 年に公害克服の実績を評価され受賞した国連環境計画(UNEP)の「グローバル 500」を、平成 13 年に大連市も受賞し、国際的にもその環境改善が評価されました。

**イ . スラバヤ市 (インドネシア)**

本市とインドネシア・スラバヤ市は、平成 9 年のアジア環境協力都市ネットワーク構築時から連携を図っており、平成 14 年には、国際協力銀行の支援のもと廃棄物に関する調査を実施しました。同調査から廃棄物全体の 5 割を占める有機ごみにスポットをあて、J-POWER グループ株式会社ジェイベック若松環境事業所の高倉弘二氏の協力を得ながら、平成 16 年より市民参加型の「生ごみのコンポスト化協力事業」を実施しました。当事業によって

スラバヤ市の廃棄物量が 32% 削減されるなど、市民の環境意識が向上されました。以来両市は着実に友好関係を築き、平成 23 年 3 月に「戦略的環境パートナーシップ共同声明」の署名、平成 24 年 11 月に「環境姉妹都市提携に関する覚書」を締結しました。

**ウ . 西ヌサトゥンガラ州 (インドネシア)**

平成 25 年度より、西ヌサトゥンガラ州マタラム市において、「廃棄物管理業務の効率化事業」を実施し、モデル地区において、効率的な廃棄物管理システムを構築し、廃棄物のリサイクル・減量化を進めています。

また、スンバワ島における「ヒマ栽培を核とした農民生計向上に関する協力事業」では、荒地でも耕作可能なヒマ栽培技術及び堆肥化技術の指導を行い、ヒマの生産拡大を図っています。

**エ . 上海市 (中国)**

本市と環境ミュージアムが取り組んでいる体験型環境教育手法などによる環境教育プログラムと、上海市環保局や科技馆などの取組を共有化することで、お互いの環境教育事業が活性化することを目的とし、平成 23 年度に、両市の環境教育担当者が共同企画した環境教育プログラムを上海市の児童を対象に展開しました。また、平成 26 年度からは大気環境改善のための都市間協力を開始しています。

**オ . ハントワジャヤ特別市 (マレーシア)**

平成 23 年度～ 25 年度にマレーシア固形廃棄物管理公